

平成 30 年度 第 1 回桑名市子ども・子育て会議 議事録

平成 30 年 8 月 23 日 13 : 30～

桑名市役所 中会議室

1. 開会

(保健福祉部子ども未来局長あいさつ)

ご出席いただきありがとうございます。今年度より、保健福祉部に子ども未来局が新設され、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない包括的な支援体制をより進めていきます。具体的には、各種事業や相談業務に加え、母子保健、子ども医療費の助成、障害児支援サービスなどの業務を集約しています。場所も、教育委員会事務局と隣り合わせとなり、福祉と教育で連携・情報共有を図っていきます。また、5月には桑名市総合医療センターが診療を開始しました。これまで桑名市では二次医療を提供する上での基幹病院がなく、重篤な患者の多くが市外に搬送されていましたが、今後は桑名市総合医療センターを急性期医療、二次医療の中核病院として安定的・継続的な地域医療体制の強化を図っていきたく考えています。今年度は、子ども・子育て支援事業計画の4年目であり、平成32年度以降の第2期計画策定へ進む重要な年度なので、委員の皆さまのお力添えをよろしくお願いします。

(松岡委員長あいさつ)

一人ひとりの子どもの育ちが保障されるよう、法律や制度が変わってきています。また、子どもが生まれる前段階の妊娠期から切れ目なく母親、家族を支援し、子どもの育ちを見ていくという流れも国の方針です。妊娠期の公的サービスは母子健康手帳がスタートですが、母子健康手帳をもらわない親が存在しており、妊娠を良かったと思う人たちばかりではないという問題も同時に考えていただきたいと思っています。

2. 委員紹介

松岡委員長：先に退出する加藤委員から。

加藤(隆)委員：議事にもある小規模保育事業だが、桑名市は4月の時点で待機児童ゼロのうえ、今後は子どもの数が減少していく。受け皿の計算は定員数をベースにしている、たとえばA保育園が定員150人で在籍110人、B保育園が定員100人で120人いるとしたら、B保育園の20人をA保育園の空いている枠に回すという計算をすると聞いた。しかし、私立保育園では定員より余分に受けてもいい。定員より少ないところは先生の数が足りない場合もあるが、

定員ベースで受け皿の数を計算し、ニーズ調査から不足していると結果が出るのは矛盾している。行政には、現状を把握した数字をあげて欲しい。また、福祉ヴィレッジの定員数はどう算出されるのか。財政が厳しい中で、小規模にしても作るということになるのか。子育て会議で、数字の出し方を明確にしてほしい。現在でも0、1、2歳児が入れる保育園はあり、待機児童はゼロとなるのに新しい園を作る根拠はどこにあるのか。

松岡委員長：市のサイズを考えてコンパクトな行政運営も必要だろうし、新設も本当にニーズに合っているかというご指摘をいただいたので、会議を進める中で返事を期待したい。

(委員自己紹介)

3. 事務局紹介

4. 議事

(1) 桑名市子ども・子育て支援事業計画の概要について

■資料3、桑名市子ども・子育て支援事業計画本冊>

(事務局が資料にそって説明)

松岡委員長：委員の意見がニーズ調査の結果とともに計画に反映される。質問がなければ次の議題に進む。

(2) 桑名市子ども・子育て会議スケジュールについて

■資料4

(事務局が資料にそって説明)

松岡委員長：質問がなければ次の議題に進む。

(3) (仮称) 桑名市地域福祉保健計画の策定について

■資料5

(事務局が資料にそって説明)

秋山委員：精神疾患の親がいる場合、子ども未来課と連携して推進してもらわないと、どうしても母親に重点が置かれてしまう。精神科の医者は子どもがいると母親が安定すると言うが、子どもは母親の精神を安定させるためにいるのではないと思うので、子どもの視点も入るよう、子ども未来課と連携を取りたい。

事務局：母親が精神的に不安定で、子育てに悩んでいる相談も多い。今回の計画でそういう部分をどう集計したらいいか、意見を共有しながら進めていきたい。

松岡委員長：地域福祉保健計画に5分野の計画が含まれているが、独立した5つの計

画を総称しているのか。地域福祉保健計画に子ども・子育て支援事業計画も追加され、今までの方向性から変化があるということなのか。

事務局：地域福祉保健計画の下での5つの計画は独立した計画として冊子が別にあつたが、総合的な計画として1冊の冊子にする。ただ、それぞれの計画が幅広い分野にわたっているので、共通の桑名市の現状・課題があり、その後に個別の計画の課題や実施目標が入る。たとえば第1章に地域福祉計画、第2章に生活困窮者の計画というように、章立てで計画が並ぶと考えている。子ども・子育て支援事業計画は、かなり重要な計画で法定義務もあるので、別冊でこれまでの計画を踏襲する形になると考えている。

水谷委員：桑名市地域福祉園計画に教育が入ってなくても矛盾はしないか。

事務局：子ども・子育て支援事業計画に幼児教育の部分は入ると思うが、計画の策定範囲については変わらない。

松岡委員長：いずれにしても子どもは桑名市地域福祉保険の枠組みに入るし、すでにある様々な計画も中身が重複するところがある。計画を策定する委員が一同に集まって議論するのではなく、独立してやっていき、冊子は一緒になるが、子ども・子育ては別冊になるという理解でいいか。

事務局：個別の会議で計画の中身を吟味いただくことは変わらない。複数の計画に齟齬がないようにすることと、計画ごとに違うコンサル業者がついて計画内容が変わることがあったので、今回は一業者で一体的に支援してもらう。

谷口委員：行政内部での連携体制がどうなっているか聞きたい。どこまで行政が関わり、どこまでコンサル業者が関わるのか。

事務局：コンサル業者の担当者に、計画に全体的に携わってもらう。あくまでも主体は市で、データ分析や計画の作り込みを支援してもらう。

谷口委員：行政内部での連携についてはどうか。

事務局：推進本部のような会議体は作っていないが、各所管との連携はこれまで以上に図っていく。

松岡委員長：会議での議論から計画は作られる。計画に齟齬がないかのチェックを含めてしていただく。

(4) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査の概要について

■資料6、資料6-1、資料6-2

(事務局が資料にそって説明)

松岡委員長：第2回会議でニーズ調査について意見交換があるのか。

事務局：9月末までに意見をいただいて質問票案を修正し、次回会議で議論いただく。

渡部委員：就学前児童の保護者は全世帯、小学生児童の保護者は抽出で2,000件だが、上が小学生で下が就学前の家庭は、もし小学生が対象になれば両方に答えることになってしまう。もう少し答えやすくなるか。前回の回収率が50%で、それだけの意見で行政の方針が決まっているのかという不安もある。みな意見を回収できるよう答えやすくしてほしい。

事務局：回収率を上げる方法がないか考えたい。

松岡委員長：就学前児童の保護者用が20ページ、小学生の保護者用が16ページで、この4ページの負担はきわめて大きいと思う。回収率の50.2%と言う数字は、前はどのように評価したか。

事務局：これでいいというわけではないが、前は次世代育成行動支援計画と、子ども・子育て支援事業計画とふたつの計画に関する調査票でボリュームが大きくなったので、少しでも上げられるように方策を考えたい。

松岡委員長：そこを議論しておかないと、同じようにしたらまた50%かもっと下がるかもしれない。

伊藤委員：回収率50%で1,000件以上あり、それ以上件数があっても割合は同じくらいなので、全体を反映しているという説明があったと思う。ただ、希望を書くところは、障害がある人たちについては、件数が少なく有効な数字かどうか疑問はある。

松岡委員長：ニーズ調査をするのであれば、より市民の意見が反映されるようにしたので、工夫が必要かもしれない。前回の調査内容とほぼ同じということだが、追加項目や表記が変わったものが分かるようになっているか。

事務局：新しく追加した項目は網掛けになっている。

松岡委員長：前回の調査で省いてもいいのではという意見は反映されているか。評価する上で2回目の調査も項目を同じくする必要があるのは理解できるが、答える側のことを考えて省けるものがあれば減らしてもいいと思う。

谷口委員：行政の調査として50%は高い数値だと思う。名古屋市などではだいたい30%台の回収率になるので、桑名市の市民の行政への期待が高い。一方で20ページの調査票は、字も大きくなり各事業の説明もないことを考えると、時間も気力もあり漢字が読めてある程度余裕がある人たちが回答する、つまりサンプルが偏ってしまう可能性も十分考えられる。外国の方や字が読みにく

い方や障がいのある方などへの調査も合わせてしていく必要がある。

水谷委員：ネットは使わないのか。また、問 50 などは願望を書いてしまう心配があつて、「家庭で育てるのが良いと思われませんか」ではなく、「家庭で育てるのが良いと思う」と言い切りにすると、もう少しシビアな回答がでるかと思う。

事務局：ネットは想定していない。提案書は9月末までに提出をお願いする。

谷口委員：名古屋市も39歳までが対象の調査で、ネットでQRコードをつけたが、本当に本人が回答しているのかと議論になり、全体への導入はしなかった。

松岡委員長：意見の出し方はメール、FAXなどか。

事務局：何でもいいが、できれば電話よりも文面でいただけるとありがたい。

浅野委員：二一ズ調査に各事業の説明資料が同封されると思うが、委員にも配布してほしい。保育所に預けて働いている保護者は家でも休むのは難しく、回答する余裕がないと思うので、子どもを預け、疑問は担当者にすぐ聞けるような場があると回収率も上がると思うので、検討していただきたい。

(5) 小規模保育事業について

■資料7

(事務局が資料にそって説明)

松岡委員長：現在1か所あり、平成30年にあと何か所予定しているのか。

事務局：2か所を予定しているが、1中学校地区に1か所という計画で、応募している3事業者の地区が重なっているので、今年は1か所と考えている。

松岡委員長：加藤委員の意見もふまえて議論していくということでもいいか。

事務局：次回以降、定員は検討したい。

松岡委員長：現在のところの定員と、実際の入所者数はどうなっているか。

事務局：定員19名で8月現在0～2歳が12名いる。今後は上限の19名を見込む。

松岡委員長：小塚委員もそこで仕事されているということだが様子はどうか。

小塚委員：最初4名入所し、うち2人は双子で2人揃って預ける先がないということと、8月に入所した8名のうちきょうだいが2組いて、双子やきょうだいを同時に預けたい人が多い。0～2歳までなので、3歳の子を送ってから下の子を送っていく母親もいて、送り迎えが大変。子どもが3人いて1人でも熱が出ると母親が仕事に行けないので、病児保育の必要性を感じている。

塩澤委員：0～2歳で兄弟がいると、来年上の子は出ないといけなないので、きょうだい別々に送り迎えしないといけなくなる。桑名市は、きょうだい一緒に通えるようにと言っているのですが、本末転倒な気がする。きょうだいが離れるのは

母親にとって負担で、そうなると小規模を建てるのはどうなのかと思う。

事務局：小規模に限らず、保育所は利用調整点数で調整しているが、8月15日からきょうだい離れないよう加点するようになった。

●●委員：小規模が増えたとしても、きょうだい加点によって、小規模を出る時に、下の子も同じ保育所に行けるといふことか。

事務局：確実に離れないとはいえないが、なるべく離れないような工夫をしている。

塩澤委員：転園は子どもにとって負担が大きく、親の立場からは小規模には反対している。

松岡委員長：まさに実際の親の声だが、一方で小規模に預けて働けたという声もあると思う。同じ園で母親の負担が少なく、母親が余裕を持って子どもたちと向き合えると考えると、もう少し広い視点で子どものことを考えた計画に至ればよいと思う。駆け込み寺的には小規模型にニーズはあると思うが、ほかの観点からの方策も含めて考えていけばいいし、ニーズ調査から出てくればよいと思う。今、小規模で預かっている子は、その地域の子か。

事務局：近隣の人もいるが、市内のほかの地区から来ている人もいる。

松岡委員長：目標としては3か所だが、まだ議論もあるし定員も適正なのか考えていただいた方がいい。

5. その他

(事務局からの報告事項)

<資料>

資料1 委員名簿

資料2 事務局名簿

資料3 桑名市子ども・子育て支援事業計画の概要について

資料4 桑名市子ども・子育て会議スケジュール

資料5 (仮称) 桑名市地域福祉保健計画イメージ図

資料6 子ども・子育て支援に関するニーズ調査の概要について

資料6-1 ニーズ調査票案(就学前の子どもの保護者用)

資料6-2 ニーズ調査票案(小学生の保護者用)

資料7 平成30年度プロポーザル方式による小規模保育事業の公募について

以上